

「ふるさとを愛し、15の春を輝かせるために」 ～「CSの日『オータム交竜会』の活動を通して～」

基本情報

学校

竜北中学校
竜北西部小学校・竜北東小学校

学校運営協議会

竜北中学校区拡大大学校運営協議会

平成26年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員
保護者
民生委員
高等学校校長
区長
役場職員
教職員
子ども委員（中学生）
など 48名

会議回数

年間平均5回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員3名(3名)

地域学校協働本部

氷川町地域学校協働本部

背景・取組概要

氷川町では、コミュニティ・スクールの活動が活発になってきたことを受け、11月第1土曜日を「CSの日」と定め、CS委員が主体的に活動し地域住民とともに学校を盛り上げる日とした。竜北中学校区拡大大学校運営協議会では、令和2年度より「CSの日」に合わせ、「オータム交竜会」を実施している。テーマを「15の春を輝かせるために」と定め、中学生が「氷川の宝（自然、特産物、歴史など）」について、地域の方々から学び先生役となって小学生に伝える取組を行っている。中学2年生が出身小学校へ出向き、これまでの学習で学んだ「氷川の宝」について小学生に伝えることで、中学生にとっては自己有用感を高め、小学生にとってもふるさとに興味を広げ、中学生への憧れを抱く取組になっている。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆中学校区拡大大学校運営協議会

子ども委員が『オータム交竜会』で小学生に伝えたい「氷川の宝（自然、特産物、歴史など）」を決め、CS委員に向け、プレゼンテーションソフトを使って分かりやすく説明した。2回目の会議で、担当するCS委員と中学生がチームになり、自己紹介をした後、調べたい内容やどんな授業をしたいかについて話し合った。CS委員のアドバイスを受け、もっと知りたい内容や学びを深めるための活動について、今後のスケジュール等を調整した。

◆地域学校協働活動

地域学校協働活動推進員が中学生の学びを深めるため、地域の方々へつなぎ、インタビューする日程などの調整を行った。中学生が質問したい内容などを地域の方へ伝え、当日の活動がスムーズに行われるよう、CS委員や学校とも調整を行なった。

◆「CSの日『オータム交竜会』」の内容

「オータム交竜会」は、回を重ねるごとに、中学生が分かりやすく楽しい授業に工夫する姿がみられるようになった。小学生の実態に合わせ、カードゲームや紙芝居及び動画を作成した。中学生のアイデアとやる気にCS委員もやり甲斐を感じ、お互い一緒に取り組むことで刺激を受け、よりよいものに例年仕上がっていている。

◆小中連携の取組

「CSの日」の前日にリハーサルを行い、CS委員や小学校の先生から、自分たちでは気づかなかったことについてアドバイスをもらった。リハーサルを通して中学生の意欲向上につながるとともに、小学校の先生方から中学生への支援もあった。こうした取組が小中連携の絆を生み出している。

当日は、中学生も堂々と授業に臨み、小学生のいろいろな質問にも答え、中学生もCS委員も達成感を感じていた。小学生も中学生の授業をとて楽しそうに真剣に聴き、自分が中学生になったら同じようにできることを楽しみにする様子もみられ、子どもたちの中に「オータム交竜会」が根づいてきている。



成果・効果

「CSの日『オータム交竜会』」を通して、CS委員や地域の人と一緒に活動し、褒められ認められることにより中学生の自己有用感が高まっている。同様に、CS委員も中学生の一生懸命な姿にやり甲斐を感じ、主体性が高まり相乗効果がみられている。また、昨年度は「CSの日」の後、小中学生が、授業の感想について手紙のやり取りなどをし、交流が生まれ、小中連携が更に深まった。今年度の入学式の新入生代表あいさつでは、「2年生になったら、今度は私たちがオータム交竜会で小学生にかっこいい姿を見せたいです。」との言葉があった。子どもたちの中に「オータム交竜会」が根づき、この取組を通して、たくさんの地域の方が自分たちに関わっていることに感謝し、自分も後輩や地域のために何かできることはないかとさまざまな活動に積極的に取り組む姿がみられるようになった。

【全国学力・学習状況調査】「生徒質問紙」より

	R3	R6
自分にはよいところがあると思うか	82.1%	84.5%
将来の夢や目標を持っているか	79.1%	86.2%
人の役に立つ人間になりたいと思うか	95.5%	96.5%
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか	53.8%	79.4%